

われらスクラム！クマガヤ

RWC開催まで2か月を切ったラグビータウン。「ワールドカップ」も「ラグビータウン」も、多くの市民がそれがどういふものかよくわからないまま自分の思うようにプレーしてきたのではないだろうか。そんな熊谷のまちの「54日前」をみていく。



工藤さんのスタジアムデビューは6月。「ラグビーロードって意外に上り坂で、車椅子には辛いんですよ」。その人にしかわからないことを発信したいという。

波状発信で拡散！ 前代未聞トライ

休むことなく動き続けるウスキングこと白杵健さん。この2か月で活動はどんどん広がっている。みんなでラグビーロードを走った距離で出場6か国を結ぶ「ラングチャレンジ」はアプリとなって参加者118名、南アフリカまで1242キロ（7月25日現在）に到達。出場国を国歌でもてなす「ラグビー合唱団」、スタジアムからSNSで配信する「ハチさんのほめてのラグビー解説がNHK」おはよう日本」で紹介された。パーソナリティを務めるFMクマガヤの「トライトライ」、SNS放送「橋田でいいとも！」で自ら発信し、それがテレビ、新聞など全国メディアでの紹介につながっている。FMラジオネーム「吹上の車椅子青年」工藤龍也さんは、熊谷によく通うようになった。「合唱団がきっかけで熊谷の障害者

の団体と接点ができたり、世界が広がりましたよ」
工藤さんは現在、熊谷で障害者ボランティアガイドのグループを起ち上げようと画策中だ。

ピクチャーで成長する定番トライ

白杵さんは「わかファン」代表。一方、「ずっとファン」の活動も、ピークに達している。



1 ラグビーパレードはうちわ祭2日目に実施
2 今回で2回目の「泥んこタッチラグビー」。NHKのニュース枠でも紹介された



白杵さんのTwitterより 市内小中学校では6か国料理の給食も楽しめる

高校時代に熊エマネージャーだった岸澤さんは、2男2女がプレー歴をもつラグビーファミリー。夏休みの宿題で末妹さんが、2人の兄の高校ジャージでアングル絶妙なポスターを描いた。活動10年目を迎えた「みんなのタグラグビー広場」は、2歳から5代まで63人を集めて7月13日に「泥んこタッチラグビー」を開催。おとなり行田での「最大の田んぼアート」も今年はラグビー日本代表で、熊谷圏ラグビーの田んぼでの展開は見事だ。

スクラム！ロード！ 整ラグツズやハード

5月のデビュー以来、「スクラム！」はスピーディに浸透している。老舗・中家堂は「スクラム！グンバイ」瓦せんべい、市内唯一の酒蔵・権田酒造は「大辛純米スクラム」。Tシャツはうちわ祭でも多く見かけ、駅からスタジアムまでのラグビーロードはスクラム旗だらけだ。ラグビーロードといえば、当日の大規模な交通規制も話題。試合前後に一般車両をシャットアウトし、

約400台の大型バスを運行してスムーズな交通の流れを確保する。行田含む4か所からの徹底的なパーク&ライドは、ポスト・クルマ社会に向けた意欲的なトライだろう。駅からスタジアムは約4キロ。「ラグビーファンの飲酒量はすごい。外国人ファンは、そのくらいなら飲みながら歩いて行く」説は本当なのか。東口の商業施設関係者は「どうすれば駅から右に来てもらえるか」知恵をしぼり、ラグビーロードから少し離れた店にも「ラグビーライスの」のぼりが立つ。

「ファンゾーン」が主役！ 熊谷のスタジアム外

スタジアムは、収容人員2万4000。つまりほとんどの市民は試合中、スタジアム外で過ごすことになる。RWC開催全都市で開催される「ファンゾーン」。「それぞれの地域の特色を活かした演出」「国内外から訪れるファンと交流ができる機会」だ。熊谷はコミュニティひろばを会場に、日本代表初戦の9月20日（金）

市長↓合唱団↓組の 「ナイストライ！」

もちろん熊谷のRWC関連すべては書き切れないし、「つどんサミット」「オーガニックフェス」など「RWCがあるから」のイベントもここ数年少なくなかった。ビッグイベントは、ベテランファンからビギナーまで年齢や立場を越え

て同じ方向を向くことが成功のカギだろう。これもひとつの「ファン・フォー・オール、オール・フォー・ワン」。白杵さんが繰り返すように、「天気のことのようにラグビーのことを語る」のがラグビータウンだ。そうしたトライが工藤さんの障害者ボランティアガイドのようなアイデアを産んだり、昨年の1100個から約5割増しの「うちわ祭ベール1500個」に結びついたりする。意外性は橋田の特権だ。そんな白杵さんが「(こ)嬉し泣きです」というのは、市内中学校に貼ってあった「合唱団のすめる国歌を歌えるようにする、ルールを覚えて楽しめるようにする」というあるクラスの目標。市長の送った市内全小中学生招待というキックを、合唱団がキャッチして組にパス、「ナイストライ」となった。これが「ラグビータウン」。この秋、世界の3つ目のノーサイドまで、まだ69日ある。



- 3 コミュニティひろばでの「ファンゾーン」イメージ図。地元を代表して出演の第70代熊谷高校応援団団長・田中優太さんの抱負は、「RWCを通して地元熊谷が暑いだけではないということ、みなさんに知ってもらえるように演技をして参ります！」
- 4 720ml 税別1380円。熊谷産さけ武蔵使用
- 5 熊谷西小学校5年岸澤澤さん画。兄からのダメ出し「セット前スクラムにボール入ってたらかしいだろ？」はさすが